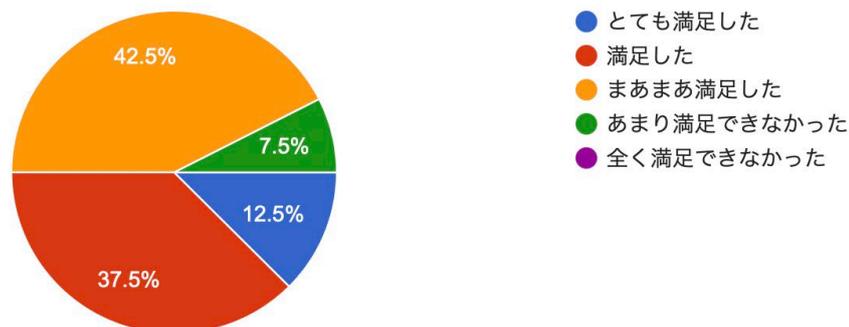


第13回プラスチック削減オンライン連続セミナーアンケート結果（一部抜粋）

講師： 吉川泰弘さん(経産省資源循環経済課総括補佐)

本日のセミナーの満足度を5段階からお選びください

40件の回答



本日のセミナーの中で最も印象に残ったことは何でしたか

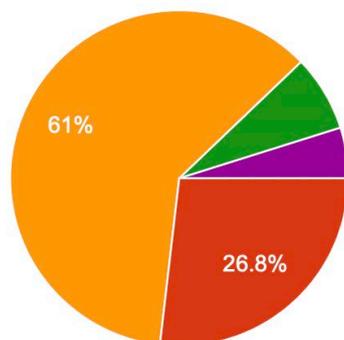
1	プラスチック使用製品設計指針の内容の詳細が聞けたこと。
2	プラ促進法が目指している背景や方向が何となく分かってきたこと。
3	やはり経産省の立場を感じました。
4	認定プラスチック使用製品の事が以前より理解できたこと。
5	経産省としては精いっぱいプラゴミ削減政策だとは思いますが、個人の選択の自由や企業の営利活動の権利などを考えると、ある程度法律で義務化、禁止、罰則を織り込まないと、プラスチック削減や環境を守る流れにはつながらないと思う。時間的にそんなに余裕はないのではないかと。
6	法律の整備に頼ることなく、プラスチック削減を推進しなくてはならないと思いました。製造責任も必要不可欠ですが、所属する生協でも使う責任を呼びかけたいと感じました。また質問等にも真摯に向き合ってください感謝いたします。今後も企画していただけると幸いです。何卒よろしくお願いいたします。
7	経産省と企業の取り組みの「努力」と一般生活者との距離を感じました。
8	最先端の企業の取り組みを知ることができてよかった。
9	すべての質問に答えていただいたことです。
10	プラスチックの現状部分と今後の方向性
11	むだなプラスチックを問題にしている点
12	プラスチックは、すべてをなくすことではなく、使う量を少なくリサイクルして何度も使っていくと話されていたこと

13	<p>大変申し訳ございません。回線の不具合で聞き取れずすみませんでした。</p> <p>質問への丁寧なご回答と今後への対策、対応への熱意を感じることが出来ました。</p> <p>国民挙げて、実効性のある行動がとれるようご指導宜しくお願い致します。</p> <p>今後へ、物、スペース、スキルあらゆる場面で成果が上がり、サステナブルが当たり前になるようにすすみますように祈る思いです。</p>
14	<p>今までの大量生産、大量消費、大量廃棄からの転換を実現するための施策を推進しているとのこと。企業の協力も大事なのだという事。ただ、経済産業省と環境省との連携などがどうなっているのか知りたかった。</p>
15	<p>サーキュラーエコノミー（同意見多数）</p>
16	<p>行政(国)側と民間レベルでの循環社会の認識に温度差が有ることを感じた。</p>
17	<p>今回も丁寧な説明でしたが、EPRの回収費用に関する答えの中で『享受した人が利用者負担』＝税金、という経産省の？立場には、ちょっと驚きました。国際的な喫緊の問題より経済界の方を向いている姿勢、また日本は目標を設定して（マイルストーン？）その中でbestをとった姿勢、社会的要請があれば動く（国民の多くが危機感をあまり共有していないのに）・・・といった消極的な姿勢に、改めてEU（特にフランス）との格差を感じました。</p>
18	<p>経産省と各業界団体との連携の強さを感じた。プラスチック削減のために積極的な取組を行うように業界への指導を期待したい。</p>
19	<p>経産省は、気候危機を何とかしなくてはという危機感が全く感じられないことに驚きました。</p>
20	<p>経産省はプラスチックを如何に無くしていくかのしくみづくりをする考えはなく、プラスチックは有用だから「資源循環」との考えであること。</p>
21	<p>プラスチック問題に関心を持つようになり、知れば知るほど、プラスチック削減戦略は、EU(特にフランス)が進んでいて、どうも日本は遅れをとっている印象でしたが、</p> <p>吉川さんのお話を伺いまして、日本も、環境配慮設計の指針や認定、ワンウェイプラスチック対策等、少しずつ前進していることがわかり、期待が大きくなりました。</p> <p>でも、例えば、マイクロプラスチックの大きな原因が、タイヤ、化繊、人工芝…とわかっている、国は(国民の理解や同意を得る等の必要もあり)すぐには対応できない…。</p> <p>となれば、私たちは、国の政策に期待しつつも、自分たちでできること(なるべく車に乗らない…等々、その他たくさん!)を、できる範囲で実践していくことが大事なんだと、あらためて思いました。</p> <p>わかりやすく話ししてくださいまして、ありがとうございました。</p>

22	資料に沿った講義で、わかりやすかったです。プラスチック削減のための一歩は、プラスチックの減産なのですね。徐々に減らせば、メーカーは徐々に工程や機械を変化させていかなければなりません。その度に設備投資が必要、大変ですね。 プラスチックは今の世の中では、無くせませんと言われたような気がします。
23	全開的に国の政策の動向を詳細に知ることができたこと。
24	講師の「立て板に水」のプレゼンと回答。特に、どうしても reduce を認めたくない回答ぶり。質疑のコーナーで、（1対多数ではありましたが）百戦錬磨の講師が、聴衆のするどい追及に押され気味だったことが印象に残りました。
25	洗剤などの詰め替え用パウチに使われるような複層フィルム包材が容リ法回収ルートで工場に入った場合、「すべてリサイクルされないということはなく、リサイクルするところもある」とのこと。もし、リサイクルできるのがどこの工場かわかればお教えください。私の調べた限り、工場では選別後その手のものを残渣として処理（熱回収）しています。単独で回収されればカスケードリサイクルできますが（水平リサイクルはまだ無理）、そうでなければ難しいはず。仮に、光学式選別機に廃プラを複数回通すことで、似たような種類のパウチのみを集めることができたとしても、経済的に合いませんから。ですから、詰め替え用パウチを環境配慮設計と呼ぶのは違うように思います。リサイクルを否定するつもりはありませんが、やはりプラスチックは徹底的に減らしてほしいです。また、拡大生産者責任の徹底もよろしく願います。事業者が正しい加減な製品を作ったり輸入したりしないためにも必要です。処理費用は税金ではなく、作った人（あるいは輸入した人）と買った人が負担すべきです。
26	改めてプラスチック製品削減についての難しさを痛感させられた。
27	神戸での取り組み。
28	大変勉強になった
29	熱心にお話ししてくださって感激しました。
30	プラスチック資源循環戦略、EU と日本の比較 全体にリサイクルや代替材の比重が高く、リデュース・リユースの取り組みが足りないと感じた。サーキュラーエコノミーには発生抑制の概念がない。EU との取り組みの違いも気になった。設計指針や認定制度だけでプラ削減が進むだろうか。最も有効なのは収集を含むリサイクル費用を事業者が負担し、それを商品価格に含ませること、つまり拡大生産者責任の徹底が必要と考える。ドイツやフランスでやっていることがなぜ日本にできないのか。
31	国が目指す方向がよくわからない。この程度の企業努力で評価してしまうのであれば、環境後進国といわれるのも無理がないかも…。

本日のセミナーの難易度を5段階からお選びください

41件の回答



- とても難しかった
- 難しかった
- ちょうどよかった
- やや易しかった
- とても易しかった